

★審査員の総評コメント

【A審査員】

春休みに入るタイミングで給食がなくなることカバーしたいという思いの団体が多かった。この予算でその部分を補えるとよいと思う。
各団体が自分たちの場だけではなくいろいろな場所に出張して行って、幅広く参加できるようにしていたり、配達をしたりと工夫をしている。支援を受けるのが困難なところにも、なんとかアプローチしていこうと努力している団体も多かった。
どんなニーズがあるか、どういった支援をするかということを考えて事業を行っていただけると、補正予算が有効に活用できると思う。

【B審査員】

各団体が独自のネットワークを生かし、その地域ならではの支援を行っている。お店、定時制高校、地域など、困った方が居るところにそれぞれのネットワークができてきている。この事業はただやって終わりではなく、ネットワークを作る、また、すき間になっていくところにお届けをするなど、今後広げていける方向に使ってもらえるとよいと思う。

【C審査員】

どこの団体も地域の課題に向き合っており、できれば全ての団体を採択してあげたかった。採択されなかった団体も、行っている内容が良くなかったというわけではないので、ぜひ今後も活動を継続して行ってほしい。
いろいろな支援者をターゲットにしているところが多く心強く思う。
こどもの食支援は社会の基盤になる。今後も支援のネットワークをつくって行って欲しい。

【D審査員】

今回、審査を行って地域の実態がよく分かった。
これからはいろいろな団体とつながっていき、どうやってこどもたちの食を確保していくのかを私自身も、地域の皆さんと話し合っていきたいと感じました。

★各委員からのアドバイス

◆申請書の書き方

- ・困っている当事者をしっかりイメージできている団体は、申請書も具体的な内容が記載できている
申請書は、支援を届けたいという思いが目に見えるような書き方になっているとひきつけられる。当事者の声を拾っているか、実像を見ているかは、短い文章でもうかがい知ることができる
- ・申請者側も要項を読み込んで、審査基準をしっかりと理解したうえで内容を記載すること
行政と連携しているのに記載がないのはもったいない
- ・情報発信の部分も見ている
情報発信ができていますと、しっかりした団体というふうに見える
HPはあるが、あまり更新されていない、という印象もよくない

◆団体、行政との連携について

- ・連携の仕方が分からないという声が多い
本来なら行政がやらなくてはいけない部分もあると思うが、自治体によりグラデーションがあると思う。実績をつくらないと相手にされない、という声もあるが、まず自分たちの実績を「見える化」していくことも大切、実績の中で支援した人数、場所、回数などを可視化すること
- ・自分たちの思いの強さや持っている情報が客観的に見て外からどう見えるか、どう評価されるかを意識していくのも大切
客観的に自分の事業を見直し、第三者にも分かるように発信していくことも連携につながっていくのではないか
- ・企業は突破口が難しいが、意識の高い企業は増えている
その企業にとって2番目、3番目の団体であっても、思いの強い団体の方が相手にしてもらえる傾向がある。
地域の中でつながりのある企業にまず声をかけていくようにしてはどうか